令和４年度　第２号
発行日　５月２日(火)
練馬区立豊玉第二中学校
校　長　　神山　信次郎

豊玉二中だより

開校記念日に寄せて

副校長　　木原　賢三

爽やかな風が吹く季節となりました。新学年がスタートして早１ヶ月、生徒たちは新しい学校生活に期待と希望に胸をふくらませながら、新しい仲間と共に、素晴らしい学年、学級づくりを目指して学校生活を送っています。４月に行われた対面式や部活動説明会では、上級生が立派な姿勢を見せ、上級生が下級生の見本となる豊玉第二中の素晴らしい伝統を上級生が示してくれました。これからの豊二中生の活躍が期待されます。いよいよ今週からゴールデンウィークを迎えます。気分をリフレッシュして５月からの学校生活を充実させてほしいと願っています。

さて、５月１日は、本校の６１回目の開校記念日です。今年度は１０月に開校記念式典を迎えます。本校は「豊玉地区に２つめの学校を」という地域の強い願いから、建設促進委員会が発足し、３年にも及ぶ長い交渉の末、ようやく校舎の建築工事が着工されました。そして、昭和３７年に豊玉中から分かれて開校した豊玉第二中学校は、全校生徒数５５９名、１２学級でスタートしました。しかしながら、会場がないため開校式が屋上で行われたり、環境整備のため校庭への植樹、花壇の整備等が必要だったりしました。そのため、開校当初は教育環境を充実させるために職員生徒はもとより地域の協力は欠かせませんでした。時代が進展し、状況が大きく変化していく中で豊玉第二中学校が地域の学校として愛され、今なお大切にされているのは、本校設立に関わった地域の方々の思いや願いが、現在まで脈々と受け継がれているからなのです。とりわけ、開校当初より地域の方の強い願いによって残された「樫の木」は、開校以来、期待に胸を膨らませて正門をくぐる新入生、毎日の元気に登校する生徒、部活動で活躍する生徒、そして、豊二中を巣立つ卒業生の姿など本校の生徒の様々な姿を見守ってきました。そのことは、校歌２番の歌詞の一節にある「かしは根を張る　年輪をかさねつつ」と記されています。このような「樫の木」に込められた卒業生の「愛校心」は、今なお、私たちが毎日の学校生活を送っているスクールラウンジの壁にたくさんつまっています。

本校の生徒たちは、保護者、地域の方々からたくさんの愛情とご支援をいただきながら、「気持ちの良い挨拶」を伝統とし、一人一人の個性を尊重する校風を築いてきました。これからの社会は変化が激しく、先行きが不透明な時代を迎えます。そのような社会の中、生涯にわたって「学び続ける力」を身に付けることが求められます。本校の生徒が、自ら進んで学び、主体的に自らの生き方を考えることが出来るようにするため、６０年の歴史の中で創りあげられてきた伝統や校風を礎に、保護者や地域の方々との深い信頼関係を築きながら、教職員一同、努力してまいります。

そして、新しい時代に向けて、「豊玉第二中学校で良かったと実感できる学校」をめざし、歩み始めます。笑顔あふれる豊玉第二中学校の生徒たちの未来に向け、今後とも保護者、地域の皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。